

司法省日誌

十九

明治九年三月



日本史籍協會編

司法省日誌
明治初期各省日誌集成

十九
明治九年三月

東京大学出版会

し　ほ　う　し　よ　に　つ　し
司　法　省　日　誌　十　九

明治初期各省日誌集成 第一期

昭和六十年三月十五日覆刻

編　　者　日本史籍協会

代表者　森谷秀亮

東京都三鷹市大沢二丁目十五番十六号

発行者　財団法人　東京大学出版会

代表者　田中英夫

一一三 東京都文京区本郷七丁目三番一号
振替東京六―五九九六四

電話(八一)八八―四

印刷・株式会社　平　文　社

本文用紙・王子製紙株式会社

クロス・望月株式会社

製函・株式会社　光陽紙器製作所

製本・矢嶋製本株式会社

39190

ISBN 4-13-093919-X

資料は国立公文書館所蔵本による。

日本史籍協会編

司法省日誌

全二〇卷

A 5判

平均四六〇頁
各価六〇〇円

明治初期各省日誌集成第一期

卷	年	代	刊行月	卷	年	代	刊行月
1	明治六年一・二月	58年	9月	11	明治七年二月	59年	7月
2	明治六年七・八月		10月	12	明治七年三月		8月
3	明治六年八・九月		11月	13	明治七年索引		9月
4	明治七年一月		12月	14	明治八年一月		10月
5	明治七年二月	59年	1月	15	明治八年二・三月		11月
6	明治七年三・四月		2月	16	明治八年四・九月		12月
7	明治七年五月		3月	17	明治八年一〇・三月	60年	1月
8	明治七年六月		4月	18	明治九年一・二月		2月
9	明治七年七・八月		5月	19	明治九年三月		3月
10	明治七年九・一〇月		6月	20	明治九年四・五月		4月

司 法 省 日 誌

十 九 目 次

明治九年三月

第二十五號 (三月三日)	一
第二十六號 (三月三日)	二
第二十七號 (三月五日)	四
第二十八號 (三月八日)	六
第二十九號 (三月九日)	八
第三十號 (三月十二日)	一〇
第三十一號 (三月十四日)	一二
第三十二號 (三月十五日)	一四
第三十三號 (三月十七日)	一六
第三十四號 (三月十九日)	一八
第三十五號 (三月二十日)	二〇
第三十六號 (三月二十二日)	二二
第三十七號 (三月二十二日)	二四
第三十八號 (三月二十七日)	二五
第三十九號 (三月二十七日)	二七
第四十號 (三月二十九日)	三〇

司法省日誌明治九年第貳拾五號

○三月三日

〔飾磨縣伺〕

十九年一月十九日

強竊盜枉法不枉法坐贓已ニ費用スル者資力ヲ以テ賠償
セシムル尋常負債ニ關係セスト雖モ其財産ノ内他ヘ抵
當若クハ質物ニ差入レ及ヒ他ヨリ抵當若クハ質物ニ取
置ク動不動産並貸附金穀等有之節追徴方左ノ手順ニ從
ヒ可然哉

第一條 該犯所有ノ動不動産已ニ他人ヘ抵當若クハ質
物ニ差入レ金錢多少借受ケ費用シ右動不動産請戻シ條
約期限未滿内ニ係ルモノハ其儘債主ニ付シ置キ贓金賠

償ノ數ニ充ツルヲ須ヒス

第二條 若シ該犯他人ノ動不動産ヲ抵當若クハ質物ニ
取り金錢貸渡シ條約期限未滿内ニ在ルヲ以テ他人モ未
タ請戻サス右動不動産犯人ノ手ニ在ルキハ他日期滿ノ
後元利合セ金若干ノ内事主何某ニ於テ賠償高ニ其抵當
若クハ質入主ヨリ之ヲ受取若シ餘分アル時ハ其餘分ノ
金若干本犯何某ヘ可相渡旨証文面ヘ裏書致シ裁判廳ノ
印ヲ押シ右証文事主ヘ下付シ置キ其動不動産ノ主請戻
ス可キ資力ナケレハ現產ヲ糶賣又ハ入札拂ノ法ヲ以テ
直ニ賣却シ賠償ノ數ニ充ツ

第三條 第一二條ノ動不動産何レモ受渡シ條約期限已

ニ滿テ該犯繫獄ノ故ヲ以テ結局ニ至ラサル如キハ其犯人ノ取り置ク他人ノ抵當若クハ質物ハ他人ニ還シテ金ヲ徴シ或ハ他人ノ情願ニ從ヒ現産ヲ糶賣若クハ入札拂ノ上賠償ノ數ニ充テ他人へ差入ル、犯人ノ抵當若クハ質物ハ其資力ヲ計リ請戻ス可キ資力ナケレハ糶賣又ハ入札拂ノ手續ヲ爲シ其代金返濟高ニ滿タサル歟又ハ餘金ノ追ス可キ分之ナキ價ナルキハ其儘現産ヲ債主ニ付シ置キ餘金アルキハ直ニ賣却シテ賠償ノ數ニ充ツ

第四條 若シ該犯所有ノ金穀他人へ貸渡シ返濟ヲ受ク可キ期限己ニ滿ル者ハ直ニ負債主ヨリ追徴シテ賠償ノ數ニ充ツ

第五條 前條ノ貸金穀未タ返濟ヲ受ク可キ期限ニ至ラサル者ハ他日期滿ノ後元利合セ金穀若干ハ穀物ハ評價人ヲシテ價ヲ定メシメ金ニ直シ事主何某ニ於テ賠償高ニ負債主ヨリ受取り若シ餘分アルキハ其餘分ノ金穀若干該犯何某ヘ可相渡旨証文面ヘ裏書致シ裁判廳ノ印ヲ押シ右証文事主ヘ下付スヘシ

右相伺候也

指令

第一條 伺ノ通 但條約期限未滿内ト雖其抵當質物ノ價借用金高ヨリ餘分ノ見込アル者ハ先ツ其借金高ヲ債主ニ給シ餘金ヲ事主ニ還給スルヲ勿論タリ

第二條以下總テ伺ノ通

〔同縣伺〕

九年二月十五日

改定律例第三拾五條凡犯罪存留養親者云々百日以下ニ該ル者ハ全罪ヲ取贖スルヲ聽ストアリ其取贖シテ留養ヲ許ス可キ者無力ニシテ納贖スル能ハサルハ同例第三拾三條ニ照シ延期ヲ與フト雖モ仍ホ贖フ能ハス亦代贖ヲ爲ス可キ親屬モ之レ無キ者懲役百日以下ハ例第五條ニ依リ全罪ヲ棒鎖ニ處ス可キニ似タリト雖モ其一年以上ニ至テハ棒鎖ノ能ク全刑ヲ盡ス所ニアラサルヲ以テ彼是平衡ヲ得難ク且折半役ニ科スルハ固ヨリ養親ノ律意ニ非ス畢竟不能納贖者ハ其一年以上ハ棒鎖三日ニ

止メ百日以下ハ棒鎖ヲ用ヒス直テニ放免可致哉又ハ罪
ヲ戴キ留養シ漸次ニ納贖セシメ可然哉

改定律例第三百五條凡懲役人逃走ヲ圖リ未タ役場ヲ離
レス云々右ハ監獄則第八條賞罰部ニ照シ獄司ノ專決ニ
任セ可然哉將タ獄則ニハ脫監逃亡ヲ企ル者トアリテ其
罰ヲ行フモ半日若クハ終日ヲ出テス若シ二日以上ノ罰
ニシテ律例中ニ開載スル者ハ都テ裁判官ノ處分ト相心
得可然哉相伺候也

指令

第一條 一年以上ハ棒鎖三日ニ止メ百日以下ハ直テニ
放免スヘシ

第二條 裁判官ノ處分ト心得ヘシ

〔滋賀縣伺〕

八年十一月二十日

内務省本年甲第拾九號ヲ以テ藥品取締ノ儀ニ付本年十月一日ヨリ先以三府ニ於テ賣買上取締罰則施行相成候旨被達候然ルニ右罰則ノ儀ハ全國一般公布相成候規則ニ無之ニ付當管下ノ人民京都府下ヘ立越右罰則アルヲ知ラスシテ之ヲ犯スハ固ヨリ罰ヲ科ス可キ條理無之候得共若知テ之ヲ犯ス時ハ該罰則ニ照シ罰ヲ科セサルヲ得ス然レモ右罰則ノ儀ハ一般御頒布不相成儀ニ付當縣ニ於テハ如何ノ規則歟承知不致居儀ニ付管下人民京都府下ニ於テ之ヲ犯スニ處罰方同府ヨリ照會有之時ハ如

何取計候テ可然哉此段奉伺候也

指令

全國一般ノ規則ニ無之ニ付犯則ノ者ハ三府裁判所ノミ
ニ於テ處分スルヲ心得ヘシ

〔同縣伺〕

十九年二月十九日

本年第一號ヲ以テ改定律例第二百六十七條被廢候ニ付
テハ賣淫懲罰例取設候迄ハ管廳ノ許可ナク無鑑札ニテ
娼妓不相成トノ地方ノ布達ニ違ヒシ廉ヲ以テ違式又ハ
違令等ノ律ニ問擬ス可キ哉ノ旨去ル一月二十日付ヲ以
テ相伺候所私娼街賣ノ罪ハ不問ニ置クト雖モ地方官ノ
布令ニ違フノ罪ハ相當ノ處分ニ及フヘシト本月十三日

附テ以テ御指令アリ右ハ懲罰例施行以前ノ處分ニ係ル者ニ限ル儀ニテ已ニ懲罰例施行ノ上ハ従前地方官ノ禁令モ亦之カ爲メ消滅スル理ニ付懲罰例施行前ノ犯罪施行後ニ發スルハ警察官吏ノ處分ニ任セ刑法上ニテハ總テ不問ニ置ク可キ儀ト相心得可然哉相伺候也

指令

伺ノ通

〔兵庫裁判所伺〕
九年二月二十一日

大坂府下木谷等五郎ヨリ神戸榮通川越七郎右衛門へ係リ四千圓ノ貸金取戻一件去明治七年十月出訴致シ取調中昨年五月別紙甲號之署ノ通七郎右衛門ヨリ右等五

郎ノ總理代人萩原忠兵衛並ニ同府下原伊助ヘ係リ刑事
ノ出訴ニ及ヒ其頃被告伊助當地在留ニ付當廳ニ於テ受
理イタシ夫々取糺候所忠兵衛ハ右證書實際取扱タル儀
ニ無之伊助ハ乙號^{之略}ノ通申立候故同人ト松田亮造ハ當
時亮ト改稱」對決ニ無之テハ結局不相成場合ニ立至リ
即亮呼出ノ儀石川縣ヘ及掛合候所本人病氣ノ趣ニテ出
頭不致其後度々同縣ヘ以書中及往復候得共惣テ埒明不
申就テハ七郎右衛門ニ於テ迷惑ノ段屢々相迫リ終ニ其
情願ニ任セ便利ノ爲メ原告ハ代人松林淺七ナル者ニテ
歸神後死去」ナシテ彼地ヘ差出シ一件處分該縣ヘ委託
候所一度ノ突合セニハ相成候得共耽ト口書ヲモ不取又

該縣ニ於テハ伊助ヲ呼出スヘキ條理無之趣ヲ以原告〔代人淺七〕ヘ添書ヲ以テ大坂裁判所ヘ差廻シ〔此時松田亮ハ病苦ノ体聊モ無之且ツ大坂ヨリ呼出相成候ハ、早速出頭可致旨該縣白洲ニテ本人並ニ掛官員共承諾シタル由淺七ノ申立ナリ〕同所ヨリハ從來調懸リノ手順便利ヲ以テ舊冬當廳ヘ廻シ來候ニ付早速亮呼出方及懸合候所頃日ニ至リ又候本人病氣ノ趣申立候迪官吏ノ檢査書ハ勿論治醫ノ診斷書ヲモ不相添剩ヘ此ノ呼出シハ本人ニ無之テハ用辨不相成次第該縣ニ於テモ萬々承知可有之筈且刑事上ノ成規モ無之儀ヲ容易ニ聽届ケ遠路態々無益ナル代人ヲ差出シ甚以不都合千萬也該縣官吏ノ